



緩和ケアチームメールアドレス：tajimi-pct@tajimi-hospital.jp（QRコードでの読み取りもできます）

自施設での緩和ケアに関する悩みごと、県病院緩和ケアチームに対する意見や要望、施設ごとでのオンライン事例検討や勉強会などの開催要望など、なんでもお寄せ下さい。

～新年度を迎えて～

2025年度が始まりました。現在当院は一般床が満床となって入院を受け入れられないことがあり、三次救急の機能も十分に果たせないこともあるそうです。満床対策として、緩和ケアチームがご協力できることとして、以下の取り組みを行っております。

① 症状コントロール不十分で救急外来へ受診したり、再入院したりすることが減らせるように、入院患者さんの苦痛症状を軽減し、自己管理できるようにして退院できるよう、「症状緩和」目的での緩和ケアチーム依頼を受けています。

- ・退院時に、苦痛の緩和が本人の満足できるレベルまで改善されていなかったり、自宅療養中の苦痛出現時に患者家族が屯用薬などで対処できなければ、すぐに救急外来に受診したり、緊急入院をすることになってしまいます。そのため、入院中の苦痛軽減への支援と、自宅での症状緩和のための自己管理指導などについて、緩和ケアチームでも積極的に関わるようにしております。
- ・入院時のスクリーニングで強い苦痛症状があるときには、緩和ケアチームの介入をご提案しています。
- ・苦痛があって退院に不安がありそうな場合には、「症状緩和」目的での緩和ケアチーム依頼をご考慮ください。ご連絡は、主治医でなくても、病棟看護師・薬剤師・MSWでも結構です。

② 不要な救急外来受診や緊急入院を減らすために、在宅医療の積極的な導入を推奨しています。

- ・がん治療が終了して今後の療養場所について患者さんご家族と話し合い、在宅療養を希望された場合には、在宅医療を導入して退院することをお勧めしております。
- ・在宅医療を導入して在宅療養することにより、家で苦痛症状が出現して不安が強くなったときに、まずは訪問医や訪問看護師が家で対応することができ、そこで病院への受診や入院が必要かどうかを判断してもらえれば、「在宅トリアージ」が可能となり、不要な救急外来受診や緊急入院を減らすことにつながるのではないかと考えております。
- ・当地域では、在宅医療を行う医療機関が増えてきており、また持続皮下注射など在宅での緩和ケアの質も向上しております。この医療資源を上手に活用すれば、家でも病院入院と同じような症状緩和を行って過ごすことができると期待しております。

今年度も引き続き、活動を続けてまいります。

ご意見・質問やチーム依頼など、まずは緩和ケア医師の直通電話にお電話下さい

(PHS：7774 平日8時半～17時)



(文責：伊藤浩明)